

一 般 質 問 発 言 通 告 要 旨

(令和4年三島市議会9月定例会)

発言 順位	発 言 者	発 言 要 旨	備 考
1	藤 江 康 儀	1 発達障がい療育支援等について 2 都市計画道路等の現状と今後について 3 都市的土地利用の推進について	9/21 (水)
2	河 野 月 江	1 三島の介護の現在と将来を担う人材の育成・確保について 2 再開発事業最後の山場（権利変換計画認可）に向かう三島市の姿勢と対応	
3	甲 斐 幸 博	1 学校運営協議会制度及び地域学校協働本部事業について 2 芦ノ湖別荘地への高速通信環境の整備について 3 公園管理について	
4	村 田 耕 一	1 防災力向上 2 不登校児童生徒のための多様な教育機会 3 帯状疱疹ワクチン接種費用助成制度	
5	岡 田 美 喜 子	1 共生社会におけるトイレの環境整備について 2 かわせみトンネルの防犯対策について	9/22 (木)
6	石 井 真 人	1 三島市の自治体DXの推進状況について 2 三島市におけるインクルーシブ社会実現への考え方	
7	中 村 仁	1 新庁舎整備事業について	
8	古 長 谷 稔	1 三島市沢地の違法盛り土の危険性について 2 東街区再開発の実施設計における地下水影響対策について	
9	堀 江 和 雄	1 選ばれる街・稼げるまちづくりのためにⅡ 2 2030年のまちなかリノベーションの具体的な取り組みについて	9/26 (月)
10	宮 下 知 朗	1 「住むなら三島」移住・定住の更なる促進に向けて 2 部活動の地域移行について	
11	沈 久 美	1 「無園児」の実態把握状況と高リスク家庭への対応について 2 三島の公衆トイレをもっときれいに使いやすくするために 3 西幼稚園跡地の一部を地域の活動拠点として存続・再構築することについて	
12	野 村 諒 子	1 楽寿園を市民の憩いの居場所とする取り組み 2 新築住宅への太陽光発電装置及び蓄電池設置への説明義務条例の施行について	
13	大 石 一 太 郎	1 旧市街地を流れる各河川を繋ぐ水辺回廊のネットワーク形成を急げ 2 中心市街地活性化に向けた土地利用政策の誘導を 3 ひとり親世帯、一人暮らし高齢者世帯の生活実態の把握と生活支援の強化を	9/27 (火)
14	鈴 木 文 子	1 災害時要配慮者支援とインフラ整備について 2 小中学校の防火設備（防火シャッター）の点検について 3 頭蓋形状矯正ヘルメット治療への助成制度の導入について	
15	服 部 正 平	1 三島市が保有する公園施設の管理について 2 三島市最終処分場第一埋立地の管理について	
16	土 屋 利 絵	1 超高齢社会を迎えて、住む場所を選択できる街づくりに向けて 2 三島の発展の今後のカギをにぎる、大場の開発について 3 人と動物が共生できる社会をめざして	

一般質問発言通告書

発言順位	2番
------	----

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和4年9月6日

三島市議会議員 川原 章寛 様

三島市議会議員 10番 河野 月江

質問事項1	三島の介護の現在と将来を担う人材の育成・確保について
具体的内容	<p>団塊の世代が75才以上を迎える2025年を目前に急速な高齢化が進む中、介護需要が高まり、介護現場での人材不足が深刻化しています。市内事業者からは、人材確保・育成の厳しい現状、コロナ禍で疲弊しきった現場の実態が寄せられています。そうした状況にあっても、現場従事者の「専門性を磨きつつ、安全・安心で質の高いサービスの提供を」との熱意と奮闘によって、当市の介護予防・介護事業は支えられています。</p> <p>2020年「介護保険20年」に際し「読売新聞」が行った自治体向けアンケートでは、9割の当局が、介護保険制度を現行のまま維持するには「困難」と回答し、理由の第1位が「人材や事業所の不足」(74%)でした。介護人材の不足は、公的介護制度の存廃をも脅かす重大問題となっています。この事態を引き起こしてきた最大の要因は、介護従事者の過酷な労働環境と低処遇です。市は国に対し、介護・福祉・保育職員の賃金を国の責任で引き上げ、配置基準の見直し、雇用の正規化、長時間労働の是正などの労働条件改善を行うことを強く求めています。かつ、その一方で、介護現場の実態把握と将来予測に努め、介護人材の育成・確保をより自らの課題とし、抜本的に支援を強めることが急務と考えます。</p> <p>以上の趣旨から、以下の点について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2025年度の三島市における人材不足の見込数 2 市内事業所における職員の充足率、離職率、年代構成、稼働状況等の把握状況と見解 3 当市における人材確保・育成・専門性の向上のための取り組み 4 雇用される側、する側のそれぞれを支援する新たな事業の開始
質問事項2	再開発事業最後の山場（権利変換計画認可）に向かう三島市の姿勢と対応
具体的内容	<p>三島駅南口東街区再開発事業は、5月31日県知事による組合設立・事業認可を受け、6月には組合設立総会が開かれ、現在組合では国・県・市の補助金（社会資本整備総合交付金）を使った実施設計業務、権利変換計画作成業務が進められています。一方で組合発起人は同じ5月31日付で、県知事より「今後の実施設計の段階において、事業の検証・評価を行うことができるよう、5分野16項目について強く要請」を受けており、三島市も市民に積極的に明らかにしていないものの、同要請を受けています。要請は、令和2年11月の都市計画手続に際する要請に次ぐ、重ねての要請となります。</p> <p>いずれの要請でも言及されている「市民との合意形成」の点では、最近発表された令和4年度市民意識調査報告書において、自由回答欄に記された「まちづくり・行政」に係る意見・要望の中に、現行通りの再開発に異論を唱える意見が、推進を望む意見以上に多かったことが示されています。</p> <p>再開発事業の法的な手続きの最後の山場（権利変換計画認可）に向かうにあたり、先の6月定例会一般質問での答弁で十分明らかにされなかった点も含め、市の姿勢と対応を伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 補助金交付率、現時点の進捗状況と今後のスケジュール 2 組合設立認可に際しての県知事からの要請の経緯と内容 3 5分野16項目にわたる要請内容への見解と市の対応方針 4 三島市の土地の権利変換について <p>(1)評価基準日における評価額 (2)事業協力者募集にあたっての従前土地価格設定値について (3)民間地権者の権利変換率との不均衡について (4)議決案件についての検討について</p>

一般質問発言通告書

発言順位	3番
------	----

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和4年9月6日

三島市議会議員 川原 章寛 様

三島市議会議員 2 番 甲斐 幸博

質問事項 1	学校運営協議会制度及び地域学校協働本部事業について
具体的内容	
学校と地域・家庭が連携するための学校運営協議会制度及び地域学校協働本部は、学校を核とした協働の取組を通じて、地域の将来を担う人材を育成し、自立した地域社会の基盤の構築を図る「学校を核とした地域づくり」を推進しています。	
学校運営協議会制度は、学校と地域住民や保護者等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」に転換するための仕組みです。	
地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりが行われているのか伺います。	
1 市教育委員会がどのような利点を考えて学校運営協議会制度を導入したのか。	
2 どのような方が学校運営協議会委員となり、どのような内容が話し合われているのか。	
3 現状、地域学校協働本部の活動がどのような状況にあるのか。	
4 PDCA サイクルをどのように考えているのか。	
質問事項 2	芦ノ湖別荘地への高速通信環境の整備について
具体的内容	
官と民が協働して成長と分配の好循環をうみだしつつ経済成長を図る「新しい資本主義」の重要な柱の一つとして政府は「デジタル田園都市国家構想」を掲げました。	
この構想では、デジタル技術の活用によって、地域の個性を生かしながら地方の社会課題の解決、魅力向上のブレークスルーを実現し地方活性化の加速を目指すとしていますが、この構想の実現には、急増する情報量・通信量に対応するための高速なデジタルインフラの整備が重要です。	
昨年、市の支援により山中新田まで光ファイバーが整備されましたが、芦ノ湖別荘地はまだ届いていません。	
芦ノ湖別荘地は、コロナ禍によるリモートワークの広がりで見目が高まりました「ワーケーション」や移住の地として高いポテンシャルがあります。整備の可能性について伺います。	
1 芦ノ湖別荘地への高速通信が可能な光回線の整備の可能性はあるか。	
質問事項 3	公園管理について
具体的内容	
三島市内には、上岩崎公園、長伏公園のように近隣の方が利用するような大きい公園や街区内の方が利用するような小さな公園が多数ある中で、私の町内にある公園も含め、春先から夏にかけての草の繁茂する時期に草が刈られていない状況が見受けられます。	
管理人がいない公園については、職員により管理はされていると思いますが、限られた人数と時間で全ての公園に目が行き届いていないのが現状だと感じています。	
そこで、公園管理のあり方を根本的に見直す必要があると考えます。地域に密着した地域住民に親しまれる公園としての存在意義を見出すための施策について伺います。	
1 公園ボランティア制度の現状はどうなっているのか。	
2 公園ボランティア制度の拡充は。	
3 官民協働による地域密着型の公園にしたらかうか。	

一般質問発言通告書

発言順位	4 番
------	-----

下記事項について質問をしたいので、会議規則第 5 1 条第 1 項の規定により通告します。

令和 4 年 9 月 6 日

三島市議会議長 川原 章寛 様

三島市議会議員 3 番 村田 耕一

質問事項 1	防災力向上
具体的内容	静岡県は全域が南海トラフ地震防災対策推進地域となっており、当初は東海地震が予知可能とされていたが、近年、確度の高い予想は困難との考えが示され予知情報や警戒宣言の発表はなくなりました。一方南海トラフ沿いで観測される異常現象を評価して発表される南海トラフ地震臨時情報の運用が令和元年 5 月 31 日から開始されている。また地震のほかにも水害等の危険性が高まっている中で防災力の向上に向けて以下に伺う。 1 南海トラフ地震臨時情報の認知度向上の必要性 2 災害発生時トイレが最大の課題であるが、国はマンホールトイレ整備補助金を来年度予算に盛り込み強化するとしている。そこでマンホールトイレ設置状況と整備拡充について伺う。 3 富士市、西伊豆町に配備されているトイレトレーラーを三島市でも導入すべきではないか。 4 これからの公園の防災機能整備 5 富士、富士宮市で販売されている断水時に自宅で使用する簡易トイレシート 100 回分セットがあるが三島でも購入啓発ができないか。
質問事項 2	不登校児童生徒のための多様な教育機会
具体的内容	全国の小中学校で 2020 年度に不登校だった児童生徒は前年比 8.2%増の 196,127 人となり 8 年連続増加で過去最多となる中、国では不登校特例校の設置推進を目指すことが基本方針に明記された。不登校特例校とは、子どもの状況に合わせた柔軟な授業カリキュラムなどを組むことができ、2022 年 4 月時点で全国 10 都道府県で 21 校設置されその取り組みが注目されているが、三島市でのこの不登校特例校ともう 1 つゆる部活動についての見解を伺う。 1 静岡県では不登校特例校の設置はまだなされていないが多様な教育機会の確保という点から三島市で不登校特例校の設置の検討を始められないか見解を伺う。 2 泉大津市で合同ゆる部活動としてダンス、ヨガ&体操、トレーニング、レクリエーションが行われているが活動の機会として検討することはできないか。
質問事項 3	带状疱疹ワクチン接種費用助成制度
具体的内容	令和 3 年度 11 月議会で一般質問が行われた带状疱疹ワクチン接種費用助成について市民の方からのお声をいただき、再度その導入に向けて見解を伺う。 その答弁中にこれから高齢化が進み、今後ますます罹患者が増大する見込みの中で、激痛をもたらすこともある带状疱疹を予防することは意義のあるものであると考えているとある。症状は 3~4 週間続き、皮膚症状が治った後も痛みが残ったり、後遺症が残ることもある。ぜひとも助成をお願いしたく伺う。 1 带状疱疹ワクチンの定期予防接種化について国で審議中でまだ定期接種が認められていないから、また費用が膨大になるから、さらに接種実績が対象者の 1%であったから導入できないとの答弁だったが、令和 4 年度になり愛知県では大府市、蒲郡市、稲沢市などで助成が開始されており、市民の方の要望に応えられないか。

発言順位	5番
------	----

令和 4年 9月 6日

三島市議会議員 15 番 岡田 美喜子

質問事項 1	共生社会におけるトイレの環境整備について
具体的内容	三島市は、令和4年1月に第3次都市計画マスタープランを作成し、目指すべき都市の姿として、安全・安心に暮らせるまち・交流とにぎわいのあるまち・快適で暮らしやすいまち・共に創る持続的に発展するまちを示し、地区別にそれぞれの整備方針が定められています。ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりの推進や安全・安心な公共サービスを持続的に行う必要性が掲げられていますが、これまでも様々な計画でトイレ問題が語られない状況があります。
	共生社会におけるトイレの環境整備について伺います。
1	公園トイレの現状について
	(1) 公園トイレの現状と課題
	(2) 公園トイレの設置の方針（新設・既設）
2	公衆トイレの現状と課題について
	(1) 公衆トイレの配置の状況 【災害（避難ルート）・観光（散策ルート）】
	(2) 公衆トイレの充足状況と方針
3	トイレの老朽度の判断と改修方針について
4	公園・公衆トイレを一括管理し整備できないか。
5	バリアフリートイレの設置状況と今後の設置について
6	白滝公園のトイレ改修について
質問事項 2	かわせみトンネルの防犯対策について
具体的内容	平成24年11月定例会で、かわせみトンネルの防犯上の安全対策について一般質問しました。都市計画道路谷田幸原線の若松町交差点から壱町田北交差点までの714m区間のうち、かわせみトンネルは377mで、歩道が併用され多くの市民が利用しています。トンネル内が長いと、利用する地域住民からは、犯罪等に巻き込まれる危険性があると不安の声があります。
	供用開始から12年、改めて、かわせみトンネルの防犯対策について伺います。
1	トンネル内での防犯対策の取り組みについて
2	通報・警報装置の耐用年数と整備状況について
3	押しボタン式通報装置も警察に繋がる仕組みはできないか。
4	監視カメラのその後の検討状況と設置について

一般質問発言通告書

発言順位	6 番
------	-----

下記事項について質問をしたいので、会議規則第 5 1 条第 1 項の規定により通告します。

令和 4 年 9 月 6 日

三島市議会議長 川原 章寛 様

三島市議会議員 6 番 石井 真人

質問事項 1	三島市の自治体 DX の推進状況について
具体的内容	デジタル庁が発足してから 1 年、政府は、2026 年 3 月までを目標期間とし取り組むべき重点 6 項目を設定し自治体のデジタル化を図っている。本市の推進状況について以下に伺う。
1	三島市で所持する情報システムの標準化・共通化に向けての進捗状況
2	マイナンバーカードの普及について政府が本年度末までに「ほぼ全ての国民」の取得を目指すとした中での本市の普及状況と年度末に向けての普及率の目標と予測
3	「書かない」「行かない」「待たない」市役所実現のため、市民窓口と他部署の連携状況と新庁舎建設の際の窓口サービスの考え方
4	高齢者等のデジタル難民への対策
5	三島市 DX 推進本部における、本部長、CIO、CIO 補佐官が担う役割
6	デジタル分野専門人材の確保（採用方針）と内部人材の育成について
7	三島市を軸とした周辺市町とのデジタル連携の必要性（富士山南東スマートフロンティア推進協議会と電算センター協議会との整合性）
8	デジタル技術を通して人間中心の街づくりをしていく上での Well-Being 指標をどう設定するのか。デジタル田園都市構想の 3 つの採択事業の KPI と市民の Well-Being 指標との結びつき
質問事項 2	三島市におけるインクルーシブ社会実現への考え方
具体的内容	8 月 23 日に障害者権利条約を巡り、スイス・ジュネーブにおける国連の中で、日本政府に対する障がい児を他の子どもと分ける特別支援教育についての話し合いがされるなど、日本のインクルーシブ社会への在り方について国際的な関心が高まっている。 そこで、本市のインクルーシブ社会実現への考え方について以下に伺う。
1	三島市における特別支援教育の実態（特別支援学級、学校、通級指導教室に通う生徒推移）とインクルーシブ教育の基本的な考え方
2	通常学級における障がい児を受け入れるための工夫。生徒に応じた個別の教育支援計画の策定と合理的配慮（評価や点数のつけ方など）の実態
3	障害地域自立支援協議会（アーチ）の役割と障がい者と地域の自治会との連携の考え方
4	自治会での個人情報の取り扱いが厳しくなる中での避難行動要支援者への対応。災害発生時における個別支援計画の実効性の検証（自治会長と民生委員への負担、コロナ禍での要支援者情報の引継ぎの実態、地域の防災訓練の状況）
5	みしまるネット（地域生活支援拠点）の運用状況と災害時の受け入れ
6	インクルージョン・マネジャーの採用や育成をして地域に配置することで、障がい者を巻き込んだ地域全体でのインクルーシブな防災訓練の実施
7	芙蓉台における避難行動要支援者のための支援会を横展開してはどうか。
8	緊急時や災害時などの地域の安心安全につなげるための日常での「ごちゃまぜ」になるサードプレイス設置に対する考え方
9	障がいのある市民や支援を必要とする市民に対し、デジタル技術を使うことで、地域社会とかわりができるような仕組みづくりについて
10	三島において Well-Being を高める上で、インクルーシブ社会実現は必須な考え方であると思うが今後の将来ビジョンは。

一般質問発言通告書

発言順位	7 番
------	-----

下記事項について質問をしたいので、会議規則第 5 1 条第 1 項の規定により通告します。

令和 4 年 9 月 6 日

三島市議会議長 川原 章寛 様

三島市議会議員 13 番 中村 仁

質問事項 1	新庁舎整備事業について
具体的内容	
昭和 3 5 年に建設され、築 6 0 年以上が経過した現庁舎は、建物、設備、そして配管など全てが老朽化し、多額の改修費用が「垂れ流される」状況となっているように見受けられる。そこで令和 1 3 年度に供用開始を目指している新庁舎の整備事業について、質問を行う。	
1 新庁舎整備事業の現在までの進捗状況について確認したい。	
2 三島市議会が令和元年 11 月に行った「議会報告会」で、市民の皆様の声を頂き、豊岡市長に要望した「5 つの項目」について、コロナの影響を踏まえた現在の検討状況を伺う。	
(1) 十分な駐車場の設置について	
(2) 分散している各施設を可能な限り一箇所に集中させるについて	
(3) 高齢者障がい者にとっても使いやすい、ユニバーサルデザインの採用について	
(4) 庁舎の中に収益が上がる機能を持たせる（喫茶・コンビニ機能等）について	
(5) 交通アクセスの確保について	
3 公共施設保全計画で学校施設の大きな床面積削減が掲げられていて、他施設を学校施設内に組み込むような形で削減していくようにも理解している。新庁舎建設時はその最大の好機であると認識する。そこで学校施設を管理する立場での見解を伺う。	
(1) 学校施設の床面積削減の目標値と 現段階での削減予定・計画について	
(2) 空き教室に対する庁舎機能の埋め込みは、どのように考えているか。	
4 オンライン化など、市民が庁舎に来る必要を減らすべきであろう将来を踏まえ伺う。	
(1) コンビニの利用、その費用対効果等の現状と経緯について	
(2) 今後の見込みと、それに合わせた新庁舎の施設規模に対する見解について	
5 ウクライナ侵攻や激しい円安など 建設コストに関しても尋常ではない状況が続いている。経費の増加の大きさによっては、一度立ち止まり、事業を進めるべきタイミングを図る必要があるのではないかと感じるが、その判断の基準・準備などについて考え方を伺う。	
6 事業費の圧縮について	
(1) 三島市の借地における公共施設について、その借地料の大きなものの現状について	
(2) 新庁舎における借地の可能性とその対策等について	
(3) 建設費の圧縮について	

一般質問発言通告書

発言順位	8番
------	----

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 4年 9月 6日

三島市議会議長 川原 章寛 様

三島市議会議員 20番 古長谷 稔

質問事項 1	三島市沢地の違法盛り土の危険性について
具体的内容	本年 8 月 31 日の報道によると、三島市沢地の無許可の盛り土に対する、三島市土砂等土地埋め立て規制条例違反の罪で、市内男性が略式起訴され、沼津簡裁が罰金命令を出し、静岡地検沼津支部が森林法違反容疑を不起訴処分としたが、理由は明らかにしていないとのこと。昨年 7 月の熱海市伊豆山では、土石流災害発生により多くの命が失われた現実を踏まえ、この違法盛り土に対する危険性を三島市としてどう認識しているか、以下、見解を伺う。 1 位置と面積、把握している規模（土量）と成分、地形と排水状況、違法の状況と把握した時期、周辺での違法盛り土や違法埋め立ての状況、過去の指導と対応の状況について 2 想定される事象を踏まえた、危険性に対する三島市としての認識 3 令和 4 年 7 月 1 日に施行された「静岡県盛土等の規制に関する条例」と市条例との関係 4 今後の危険性回避に向けた、静岡県と三島市の責任分界と役割分担、工程について 5 違法盛り土や違法埋め立てを、根本的に解決していくための施策について
質問事項 2	東街区再開発の実施設計における地下水影響対策について
具体的内容	実施設計については、今年度内の完了に向けて、国の交付金を受けた後に発注し、現在契約完了して、実施設計が進行中と理解する。地下水への影響や地盤に対する安全性について、「水の都・三島」にとっては非常に重要で、心配する市民が現に存在する。静岡県からは、組合設立認可申請の審査を踏まえ、「申請者や三島市に対して、市民の不安や懸念を払拭するため、市民に寄り添った形で、常に事業の検証・評価を行うこと」を強く求められている。過去の答弁を踏まえると、実施設計の段階で、必要に応じて新たなボーリング調査を行うとのことだった。実施設計の進捗状況について、特に、いまだ懸案となっている当該エリアの地下水への影響に対する考察と対策について、以下、伺う。 1 実施設計における、現時点までの業者選定経過、追加ボーリング箇所選定経過を伺う。 2 水理及び地質学的問題点の把握状況、地下水への影響に対する考察と対策を踏まえた、建物基礎の工法の決定の経過と現状、追加ボーリング調査を踏まえた今後の対応を伺う。 3 高層、中層の建物建設予定地における、これまでとこれからの地下構造把握状況を伺う。 （1）建物の四隅に当たる予定の地点について、それぞれのボーリング調査データの必要性 （2）当該エリア内のこれまでのボーリング調査について、箇所、本数、発注者、時期、記録の有無、写真の有無、保管しているボーリングコアの有無と保管場所、報告書の有無 （3）当該エリア内のこれからのボーリング調査について、予定する箇所、本数、発注者、時期、記録や写真を残す予定、ボーリングコアを保管する予定、報告書作成予定 （4）エコ鑑定などボーリング調査以外の地盤調査のこれまでの結果とこれからの予定 4 静岡県は組合設立認可申請の審査を踏まえ、「事業を進める上で、市民の皆様との理解や合意形成は非常に重要であり、申請者及び三島市に対し、今後、実施設計を進める中で、地下水への影響や地盤に対する安全性について科学的、技術的な検証を行うとともに、引き続き具体的な計画の内容について、市民の皆様との丁寧な対話を通じた十分な合意形成を図るよう重ねて要請する」旨を明文化している。この要請にどう対応する考えか。 5 地質調査結果のボーリングコア・供試体（実物を見ると溶岩層の亀裂・空隙・空洞が検証可能）の地下水対策検討委員会や希望する市民に対する今後の公開の仕方、市民との対話の場づくりについて、組合理事に三島市が入らなかった現実も踏まえ、改めて伺う。

発言順位	9番
------	----

令和 4 年 9 月 6 日

三島市議会議長 川原 章寛 様

三島市議会議員 4 番 堀江 和雄

質問事項 1	選ばれる街・稼げるまちづくりのためにⅡ
<p>具体的内容</p> <p>地域経済を活性化し、稼げる基盤産業の確立と稼げるまちづくりの為に効果的に投資をする必要があると考えます。東街区のこれからも見据えて、ファルマバレー・ウェルネスフロントとしてのあらたな医療・健康の裾野の拡大とその先の雇用の拡大も見据えることが必要です。</p> <p>以下伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域経済を牽引する地域の基盤産業の認識について 2 地域経済の取引の繋がりを数値化で示す三島市の地域産業連関表について <ol style="list-style-type: none"> (1) 2016 年に三島市で作成された目的について (2) 経済波及効果を測る手法としてのこれまでの活用と今後について (3) 独自のデータ収集について。地元企業などへのアンケートなど基礎データの収集について (4) 5 年ごとの経済データが主な指標となるが、市でできる事と広域での経済波及効果への対応について 3 ウェルネスフロントとしての医療・健康のセンター機能などへの三島市の投資について 	
質問事項 2	2030 年のまちなかりノベーションの具体的な取り組みについて
<p>具体的内容</p> <p>都市マスタープラン・まちなかりノベーション推進計画を数回読み返すと、ヨーロッパの街並みを思い浮かべます。ウォーカブルとは歩きたくなるその先に、車優先から人が優先される街並み、歩行者優先、軒先に出店されたパラソルの下で美味しいコーヒーをいただきながらの時間、何か映画の世界が現われてくるようだ。市民の方にも参加していただき新たな取り組みも始まっています。全国では、このような取り組み、社会実験、道路のこれまでの空間利用を変えていく取り組みが模索されています。国は、これに先立ち、これからの道路空間利用についてのガイドラインを作成。さて三島市の街中はどのように、歩行者優先、が実現されるのでしょうか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 2030 年の駅前周辺エリア、車中心から人が中心との街中の具体的な姿について 2 市民の皆様からのご意見、民間企業、商店街、出店希望の若者、などのニーズについて 3 今後の進め方について。(どのような街並みが求められているのか、週末などの社会実験への取り組み、バリアフリーについて、ベビーカーなど人の流れ、南口と北口をつなぐ循環自動運転車の利用) 	

発言順位	10番
------	-----

三島市議会議員 16 番 宮下 知朗

質問事項 1	「住むなら三島」移住・定住の更なる促進に向けて
具体的内容	
<p>私たちが日常生活を送るために必要な各種サービスは、一定の人口規模の上に成り立っており、これらのサービスを今後も継続・改善していくためにも、定住・関係・交流人口増加に資する地域の特性や時流を捉えた施策に鋭意取り組んでいくことが必要不可欠であると考えてる。</p> <p>コロナ禍でリモートワークの普及など多様な働き方が広がったことなどを理由に、地方移住に対する関心が高まる中、静岡県は移住希望地ランキングで2年連続1位を獲得するなど人気が高く、こうした移住定住に対する機運の高まりを好機と捉え、より積極的な施策を展開することで「住むなら三島」と多くの皆様に選んでいただけるまちとすることが、本市の持続的な発展に繋がる1つの方策であると考え、以下について伺う。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 移住定住応援サイト閲覧数およびオンライン移住相談件数の推移について伺う。 2 本市の転入・転出数の推移について伺う。 3 中古住宅の取引状況について伺う。 4 中古住宅取得に対する支援拡充について見解を伺う。 5 「お試し移住」に対する支援について見解を伺う。 6 ニーズの高い「新幹線通学補助」の可能性を伺う。 7 市内居住者の定住促進（住宅取得支援）策について見解を伺う。 	
質問事項 2	部活動の地域移行について
具体的内容	
<p>2022年6月にスポーツ庁の有識者会議「運動部活動の地域移行に関する検討会議」が、8月には文化庁の有識者会議「文化部活動の地域移行に関する検討会議」が、2023年度から2025年度末までの3年間を改革集中期間とした、休日部活動の段階的な地域移行を提言した。</p> <p>少子化や教員の業務負担軽減などの課題を解消し、子どもたちの多様な経験機会を確保するための取り組みであることは理解するが、保護者や地域でスポーツ指導に携わる方々から今後進展する部活動改革に対する不安や期待の声を耳にする。</p> <p>本市における部活動の地域移行が今後どのように進んでいくのか、以下伺う。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 中学校部活動の現状を伺う。 2 部活動指導員・外部指導者の活用による成果について伺う。 3 本市の目指す「部活動の地域移行」の形について伺う。 4 指導者人材の確保に向けた取組について伺う。 5 今後の進め方について伺う。 	

一般質問発言通告書

発言順位	11番
------	-----

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和4年9月6日

三島市議会議員 川原 章寛 様

三島市議会議員 7番 沈 久美

質問事項1	「無園児」の実態把握状況と高リスク家庭への対応について
具体的内容	厚生労働省は今年2月、保育所や幼稚園、認定こども園に通っていない0歳児～5歳児のいわゆる「無園児」が全国で約182万人に上るとの推計を公表した。0歳児～2歳児までは家庭内保育が行われるケースは多く、健全な環境が整っていればむしろ望ましいとの意見がある。3歳児以降では多様な保育スタイルがあり、無園児の把握は難しいとも言われている。 育児に困難を抱える親子が孤立すれば虐待などのリスクが高まるとの懸念、10代～20代の若い保護者の子どもが無園児になりやすい傾向にあるとの調査結果からは、孤立、貧困の懸念も指摘されている。いずれも、来年4月創設のこども家庭庁の大きな課題の一つであり、国による本格的な対策が期待されるが、市における無園児への対応は早急に必要と考える。無園児の実態についてどこまで把握されているかについて伺う。
1	三島市における「無園児」の数。どのようなケースがあり、どんなリスクがあるか。
2	リスクが高いと見受けられるケースにはどのように対処するのか。
3	通園の有無に関わらず、親を孤立させないための支援をどのように考えているか。
質問事項2	三島の公衆トイレをもっときれいに使いやすくするために
具体的内容	公衆トイレはかつて「4K」と表現されていたが、ここ十数年、公共福祉・観光サービスの目玉として扱う自治体が増え、安心・安全、衛生、機能、使いやすさが向上。近年は話題性のある斬新奇抜なデザインや高級感あるトイレが各地で登場している。 清潔なトイレの確保は高齢者や障害者の外出支援にもつながる。多様化する属性にどこまで配慮できるかなど「トイレを見れば、時代が、社会が見えてくる」「トイレは文化」は過言ではない。昨今話題の神戸市「トイレまっぷ・市民トイレ」導入をと考えるが、三島の公衆トイレの管理はどうなっているのだろうか。以下、伺う。
1	公園や街角にあるトイレについて、個数、特徴、管理状況、改修・建て替え計画を伺う。
2	観光関連施設と楽寿園のトイレについて現状を伺う。
3	上記以外の市管理の公衆トイレについて現状を伺う。
4	神戸のような取り組み実現には管理の一元化が不可欠ではないか。導入せずとも合理的な管理力によりグレードアップが望めるのでは。包括管理委託の側面から可能性を伺う。
質問事項3	西幼稚園跡地の一部を地域の活動拠点として存続・再構築することについて
具体的内容	西幼稚園が令和3年3月に廃園となり、その跡地の利用についてこれまで様々な議論が重ねられ、現時点において敷地の全てが市の手を離れ売却の方向であると理解している。しかし、今年の三嶋大祭りの開催中、栄町の祭典本部となり、子ども会の神輿としゃぎりの拠点でもある当該地に、3年ぶりに集まった地域住民と自治会の声、存続への願いは極めて切実であった。西区11町の温度差、認識のずれ、地域の声の吸い上げ不足などが見受けられたことから、このままでよいものかと思う。改めてこれまでの経緯を確認し、地域の声を届け、地域活性に向けた新たな動きとしたい。以下、伺う。
1	三島市公共施設保全計画・個別施設計画に則した基本的な考え方
2	廃園決定から地域の声をどのように吸い上げてきたか。経緯と今後の予定について
3	主に西地区北5町の声をもとめ、納得のいく結論を導き出すため、(1)園舎解体と更地化着手まであと1年の猶予をもたせること。(2)敷地の一部を地域の拠点として存続使用できるよう、改めて官民自の知恵を鋭意結集させること。以上を求めたいが見解を伺う。

一般質問発言通告書

発言順位	12番
------	-----

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 4年 9月 6日

三島市議会議長 川原 章寛 様

三島市議会議員 14番 野村 諒子

質問事項1	楽寿園を市民の憩いの居場所とする取り組み
具体的内容	三島市の中心に位置する楽寿園は、市立公園として開園して70年が経過しました。楽寿園は、国指定の天然記念物・名勝として親しまれ三島市民にとっては市内で一番誇りに思える施設であることは言うまでもありません。しかし、イベント開催時以外の日、どれだけの市民が憩いの場所として利用しているのでしょうか。年間2億円を超える運営費をかけている公園であれば、市民が日常的に気楽に利用したくなる公園としてリニューアルすることも必要ではないかと思えます。そこで、市民の日常的な居場所となる取り組みについて伺います。
1	公園として広く認識していただくために「楽寿園公園」と表示できないか。
2	イベント開催日以外の開園日の平均入場者数の費用対効果について
3	8月に行われた無料朝開園「#みしま朝旅」の評価と今後の取り組み
4	開園時間を変更し、朝、6時半からの開園に出来ないか。
5	朝のストレッチ、朝の太極拳などを開催する等、朝の利用促進への取り組み
6	市民の憩いの居場所とするために、森林浴、樹木を楽しむベンチを設置出来ないか。
7	年間パスポートを有効活用し、日常的な利用促進を図る取り組み
8	動物飼育場所の糞尿のにおいをなくし、公園に相応しい管理運営への取り組み
9	北側花壇を芝生広場にして、自由に使える場所に変更出来ないか。
10	正門入り口（商工会議所側）付近の樹木を適正に管理し、明るい入口への取り組み
11	楽寿園のリニューアル費用は、企業版ふるさと納税として取り組めないか。
質問事項2	新築住宅への太陽光発電装置及び蓄電池設置への説明義務条例の施行について
具体的内容	ウクライナへのロシアの侵攻以降、世界の石油需要のひっ迫から石油価格が高騰し、各家庭における光熱費の負担が大きくなっています。世界規模でエネルギーに対する議論がされていますが、カーボンニュートラルへの取り組みも企業だけでなく各家庭にも求められる時代になってきました。政府は、当面の打開策として原発再稼働を増やし、新設の原発への取り組みも進めようとはしていますが、原発依存から起きた東日本大震災の事故の経験から、安全な原発をつくることは相当な技術、時間、費用が掛かり、世界のエネルギー政策は、原発、石油、天然ガスに依存しない、再生可能エネルギーへ向けての研究開発が活発に行われるようになりました。
	現在は太陽光パネルの種類も増えて、屋根用だけではなく壁用やガラス窓になる透明パネルも開発されるなど、建物の外壁がまるごと太陽光を活かした発電も可能になったようです。
	また、蓄電池開発も活発になり費用も徐々に購入可能な金額に近づいてきているようです。これからの時代は、山を削ってつくるメガソーラーではなく、家庭やビルに設置された太陽光による分散型の発電システムによってまちのエネルギーが作られると予想されています。
	そのような中、三島市はスマートハウス設備導入費補助金を出し、利用されている方も多くいるようですが、三島市として再生エネルギー推進への取り組みを更に進めるための施策について伺います。
1	スマートハウス設備導入費補助金の交付状況について
2	新築住宅建設時に、建設業者が施主に対しスマートハウス設備（太陽光設備及び蓄電池等）についての最新情報を提供することを義務付ける条例を施行することは出来ないか

一般質問発言通告書

発言順位	13番
------	-----

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和4年9月6日

三島市議会議員 川原 章寛 様

三島市議会議員 8 番 大石 一太郎

質問事項 1	旧市街地を流れる各河川を繋ぐ水辺回廊のネットワーク形成を急げ
具体的内容	三島には素晴らしい水辺環境があり、未整備箇所のある御殿川・清住緑地を整備し、各河川を繋ぐ水辺回廊ネットワークを形成し、快適な住環境と、水辺景観の美しい街づくりを。
1	小浜池の水は、直近では平成20年・26年・29年と断続的な渇水状態となっており、異常気象が続く中、水の枯渇は根源の部分で解決していません。地下水の保全と涵養、規制を目指した「黄瀬川地域地下水利用対策協議会」の現状と今後の対応について伺います。
2	源兵衛川の修景整備・水辺環境保全の継承は重要であり、グラウンドワーク三島等の市民力は大切、市民活動の原点に戻り再評価を。今後の取り組み、連携の在り方について伺います。
3	2市1町で港・湧水・せせらぎウォーク実行委員会を設立、長泉町も参加し観光協会で広域に観光回遊ルート等で取り組むとしていたが、その後の経過と今後の対応方針について伺う。
4	旧市内に現存する水資源を活用して地域活性化、観光振興を図るためには、水の間廊各河川を繋ぐ魅力的な動線が必要、未整備のある御殿川、清住緑地の歩道橋等基本計画を作成し、事業実施すべきで、美しい景観と清流ルート、水の間廊整備に向け市の見解を伺います。
質問事項 2	中心市街地活性化に向けた土地利用政策の誘導を
具体的内容	静岡県の「本当に住みやすい街」の1位に三島広小路が選ばれ、新幹線等アクセスと移住定住してのワーケーションの場、自然環境の良さが評価されたことは嬉しい限りです。しかし一方では、大通り750mの区間の空洞化・マンション化が進んでいます。
1	大通りの空き店舗・空き地の利活用で、大規模用地へのマンション計画が進行している。個人・法人が所有する土地は、都市計画法・建築基準法等各種法令に適合すれば、民間開発が可能となるが、市はこれら街中の土地利用動向についてどこまで把握しているのか伺います。
2	マンション建設は、中心市街地の街並み景観形成、商店街活性化対策等、今後の市の土地利用・活性化対策にも影響しますので、市は対応方針、明確なビジョンを持つべきであります。 大通り地区も芝町通り地区も景観重点整備地区に指定されていますので、権利者や地元商店街と協議し、地区計画でマンション低層階の商業・業務としての利用を規定するのか、または地域住民からの意見等がなければ民間開発と、民間に委ねてしまうのか方針を伺います。
質問事項 3	ひとり親世帯、一人暮らし高齢者世帯の生活実態の把握と生活支援の強化を
具体的内容	ひとり親世帯も一人暮らし等高齢者も、支援制度を知らないで、活用していないケースがある。コロナ禍、物価高で苦しい生活実態を把握するため踏み込んだ市の取り組み調査で、適切な福祉サービスに繋げる相談と支援体制の構築が大切となります。
1	ひとり親世帯の自立支援に向けた三島市の取り組み状況はどうか。親と子供の生活苦、就労・就学状況、困窮内容など、直面する課題、現状把握について伺います。
2	一人暮らし高齢者は8,816人(世帯)、高齢者夫婦12,646人、その他で、要介護認定者は、4,878人で、要介護認定率は15.1%、75歳以上が約9割、高齢者世帯の5割強が老々介護です。市は一人暮らし等の高齢者の生活実態の把握にどこまで踏み込んでいるのか伺います。
3	ひとり親世帯の実態把握で、親の就労・収入・住宅環境、養育費の状況等や、子供の環境、就学状況の実態など踏み込んだ調査を行い、支援の充実を図ることが大切、市の考えを伺う。
4	団地のモデル事業や、一人暮らし8,816人を対象に、一定収入金額以下の人をリストアップして実態調査を行い、調査を通して、生活支援に繋げる考えはないか伺います。

一般質問発言通告書

発言順位	14番
------	-----

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和4年9月6日

三島市議会議員 川原 章寛 様

三島市議会議員 5 番 鈴木 文子

質問事項 1	災害時要配慮者支援とインフラ整備について
具体的内容	
気候変動などの影響により、台風や豪雨災害などの自然災害が激甚化、頻発化し、各地で深刻な被害をもたらしています。風水害から市民を守る取り組みや巨大地震などに備え、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を進める必要があります。	
1 要支援者の個別支援計画の作成状況並びに課題について	
2 助産師さんの協力のもと、妊産婦等、母子の安全確保や健康管理、健康相談等の支援協力が得られるよう、一般社団法人静岡県助産師会等と、災害時協力協定の締結を考えてはどうか。	
3 全避難所（24か所）に液体ミルクの配備を考えてはどうか。	
4 福祉避難所の開設および活用方法について	
(1) 各避難所の収容人数は (2) 利用者の条件は (3) 福祉避難所へ直接避難は可能か。	
5 先日の短時間豪雨により道路が冠水状態などの被害が発生しているが、被害状況と今後のインフラ整備の取り組みについて	
質問事項 2	小中学校の防火設備（防火シャッター）の点検について
具体的内容	
防火シャッターは、火災が起きたときに閉まることで炎や煙を遮断し、延焼を防ぎます。また、屋内の子供たちが、避難するための時間的猶予を確保するという役割を持っています。	
一方、過去に防火シャッターの誤作動により、突然降り始めたシャッターに挟まれて怪我や死亡事故が起きています。この様なことを踏まえ2005年以降すべての防火シャッターで「障害物を検知すると自動で止まる仕組み」の義務化や2016年からは、防火シャッターの点検が義務付けられました。	
本市の防火シャッターは、小学校に22ヶ所、中学校に38ヶ所と認識しています。	
ついては、以下の点を伺います。	
1 これまでの「防火設備定期検査」後の課題把握と対処事例について	
2 「障害物を検知すると自動で止まる装置」の整備状況について	
3 今後の課題と整備の取り組みについて	
質問事項 3	頭蓋形状矯正ヘルメット治療への助成制度の導入について
具体的内容	
赤ちゃんの頭の形は様々な要因で変形がおきます。向き癖による斜頭や短頭などがその代表的なもので、以前は頭の変形の治療方法はありませんでした。しかし近年では重度な変形を残して成長させることは、その後運動や言語の発達が遅れるリスク、社会生活でコンプレックスを持つことがあると学術的に発表されています。現在アメリカでは、ヘルメット治療が導入され効果が出ています。	
近年日本でも頭蓋形状矯正ヘルメット療法の導入により、重度の位置的頭蓋変形症の乳幼児が、6ヶ月の治療で歪みが改善され効果が出ています。	
しかしながら、現在この治療は保険適用外で自己負担額40万円～60万円と子育て中の親たちの負担が重くなっています。	
1 頭蓋形状矯正ヘルメット治療への助成制度の導入の必要性を感じるがどうか。	

発言順位	15番
------	-----

三島市議会議員 9番 服部 正平

質問事項 1	三島市が保有する公園施設の管理について
具体的内容 公園施設は市民・来訪者の憩いの場である。その公園内の施設（トイレ・遊具等）が老朽化する中で心配・不安、不快の声もある。	
市が持つ公共施設保全（長寿命）計画の点及び環境保全、衛生面から以下伺う。	
1 施設の管理状況について	
（1）公園施設の劣化度について	
（2）長寿命化から対応すべき保全改修計画について	
2 三島駅南口の利便性と環境保全について	
（1）駅前に飛来するムクドリ対策について	
（2）駅前のバリアフリー化について	
3 公園内・施設に近接する公衆トイレについて	
（1）補修・改修計画の予算措置について	
（2）市が管理する公衆トイレの管理状況	
質問事項 2	三島市最終処分場第一埋立地の管理について
具体的内容 繰り返し質してきた「三島市最終処分場」に関して、市民不安の解消と三島市の対応姿勢について改めて伺う。	
1 最終処分場におけるダイオキシン類測定結果について	
（1）市民に公開されているダイオキシン類等測定結果は、検査項目のすべてに於いて公開がされているか。	
（2）埋立地地下を流れる地下水は、水質調査を行う水の採取場所の観測井戸 4 カ所へ全て集水される構造となっているか。	
（3）処分場から出る水は安全とする点について	
2 最終処分場の管理・廃棄物の対応について	
（1）基準値を超えるダイオキシン類を含む廃棄物が未だ埋設されていることに対する認識について	
（2）最終処分場の管理に於いては関連法令（省令）に適応されているか。	
3 国土交通省が除染作業を行ったダイオキシン類が含まれた廃棄物について	
（1）国土交通省が除染作業を行ったダイオキシン類が含まれた廃棄物の搬出先について	

一般質問発言通告書

発言順位	16番
------	-----

下記事項について質問をしたいので、会議規則第51条第1項の規定により通告します。

令和 4年 9月 6日

三島市議会議員 川原 章寛 様

三島市議会議員 18番 土屋 利絵

質問事項 1	超高齢社会を迎えて、住む場所を選択できる街づくりに向けて
具体的内容	住宅は福祉の要です。誰でも住む場所を失わないために、そして住んだ後のフォローが必要な方には、継続的なフォローができるように、三島市をあげて話し合う体制を作っていく必要があります。
	さらに、若いときと高齢になったときでは、体も動ける範囲も違ってきます。動けなくなったときのことと考えて、動けるうちに、住む場所などを考えておくための制度づくりについて伺います。
	1 住む場所がない方のフォローと、その後の支援体制について
	2 空き家などを改修して、セーフティネット住宅とする取り組みの周知について
	3 三島市に、市民と民間と行政が話し合う枠組みを作るための方向性について
	4 より便の良い場所に移り住んでいくためのインセンティブを作っていくために
質問事項 2	三島の発展の今後のカギをにぎる、大場の開発について
具体的内容	伊豆中央道インターに直結し、東名新東名高速道路、国道246号線ともつながっていて、しかも、大場駅まで徒歩10分、三島の街は土地がないと言われていますが、非常に交通利便性が高いところに、広大な土地が残されています。三島市の課題である少子高齢、人口減少や空き家問題を解決するための雇用の創出、さらに福祉施策のさらなる向上のための財源とするための税収アップにつなげるためにも大切に活用していただきたいという思いは強くあります。以下、伺います。
	1 大場地区の都市的土地利用転換が実現した場合に創出される、雇用と税収見込みについて
	2 機能導入の整理確認、地権者の意向確認、企業の確保、国県との協議のおおよそのスケジュールと進め方について
	3 大場を加えた上での、新しい街づくりにについて
質問事項 3	人と動物が共生できる社会をめざして
具体的内容	動物愛護法、動物愛護管理法の改正を受け、国も社会も動物の共生にむけて、大きく動き出しています。特に犬や猫などは、私たちの家族の一員として大切にされています。命をつないでいくために、三島市においてもさらに力を入れていく分野であると考えます。
	1 犬猫を所管する環境政策課と、人の福祉を所管する福祉総務課の連携状況について
	2 飼えなくなった伴侶動物が発生しないための事前確認について
	3 動物愛護事業のために、寄付制度を活用していく方向性について
	4 県東部にできる予定の動物管理指導センターの現在の情報と、三島市との連携について